

日本語教師養成・研修推進拠点推整備事業
中部ブロック 2025 年度 研修会
アンケート結果



開催日時：2025 年 12 月 14 日（日）13 時 30 分～16 時 30 分

会場：南山大学 G30 教室

定員：100 名（先着）

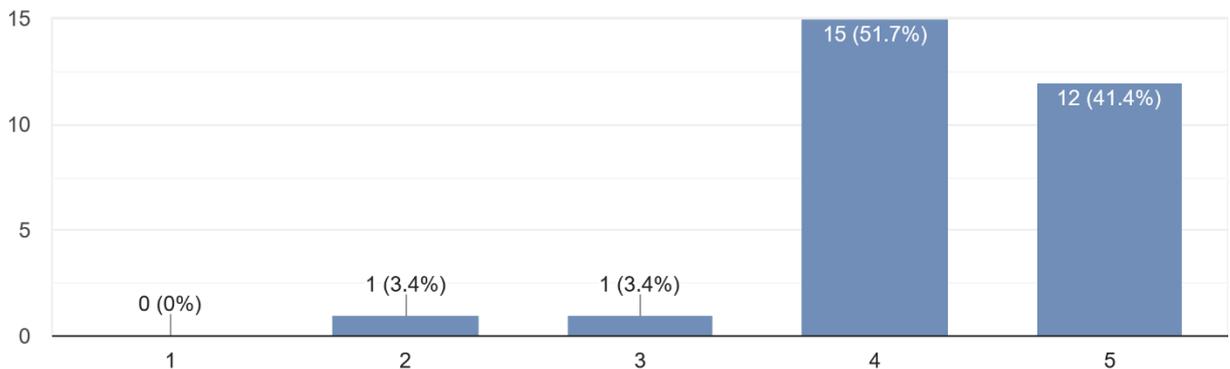
【申込数/参加数/アンケート回答数】

	対面のみ
申込者数	86 名
参加数	68 名
アンケート回答数	29 名

【対面参加者アンケート結果】

本日のシンポジウムの満足度は

本日のシンポジウムの満足度は
29件の回答



本日のシンポジウムについて、ご意見・ご感想などを、一言でも構いませんのでお聞かせください。

- 障害者施設に勤め、日本語教室ボランティアにも関わっています。
外国人だけでなく、聴覚障害者にとっての日本語教育の重要性を考えさせられました。
福村さんの日本語のパワーを弱めるという実践の中での気づきは、ハッとさせられるものがありました。言語のマイノリティやアンデシティ等について改めていろいろな視点から考える機会になりました。
ありがとうございました。
- 日本語教育と手話の関係について大事な視点がえられました。
- 当事者の方から話を聞くことができ、考えさせられた。様々な立場の方がいたことで、視野が広がった。
- 日本語教育について学んでいる学生として、ただ日本語学習者のことだけを考えるのはいけないと感じました。まだまだ学ぶことがありそうですとても良い機会になりました。
- 日本語教室についてより深く理解でき、とても貴重な機会でした。
- 日本語教育の定義の新しい考え方を理解した。
- 初めて知る事ばかりでとても勉強になった。
- 視野が広がりました。今日見聞き感じたことを今後どう活かせるのか考え続けたいです。
当事者のお話はありがたいの一言です。勇気と気合いをいただきました。
話題提供とパネルディスカッションはパネリストのご所属がバランスよく、それぞれからもっと聞きたいと思いました。
(広くて素敵な会場でしたが、ちょっと寒かったです…それでマイナス1評価にさせていただきました…すみません)
- あまり考えたことがなかったのでとても勉強になった。

- 今回の様々なお話を聞いた上で、改めてこの世に「当たり前」は無いのだなと感じた。私がそう感じているのも、他の誰かにとってはそうではない。それは言語に留まらず、この世の森羅万象全てに言えることだと思う。この「当たり前の意識」から脱却した先に、理想的な多文化社会があるのだらうと考えさせられたシンポジウムだった。
- いろんな取り組みがあることに興味あります。
- 登壇者の皆様、貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございました。とても勉強になる素晴らしいシンポジウムでした。

仲宗根さんと若原さんの「当事者のお声」から、自分が本当に知らなかったことを沢山教えていただきました。特に、手話をいつ・どのように学ばれたのかというお話が意外性もあり「ことば」というものを深く考える機会をいただきました。

今回、パネルでの福村さんの「聴覚障害を持つ方が場に参加することがあった場合”こうする”を決めないことが大切ではないか」といったお話がとても印象的でした。

多くの現場ではどうしても、(特に行政に紐づく現場では)「社会的課題を解決するために、”何をするか”」という点にフォーカスしてしまう気がします。もちろん関係者皆で具体的なアクションを模索することは必要ですが、多様性と一人ひとりの個別性を考えるとき、何かの属性を持つ方にラベルを付けて対応策を考えるのではなく、そのときその場にいる人皆がそこで必要なことを考える、という意識を忘れずにいたいと思いました。

一方で、若原さんの「マスクを取る」「対面に座る」といった今からすぐできるアクションもとても参考になりました。できることを一つずつやってみること、そのためにまずは「知る」ということが、今の自分には必要だと感じています。

- 自分らしく生きる “ことば”は、なんだろうという言葉に胸が締め付けられました。誰もが尊重される社会であって欲しいと願うと共にマジョリティ側に立つことの多い自分にできる事を行なっていきたいと思いました。自分が必要以上に、イニシアティブを奪っていないか、日本語を強要していないか初心にかえることの大切さを思い出す事ができました。素晴らしいシンポジウムでした。ありがとうございました。

- 当事者の方のお話を聞く事が出来て良かったです。多くの学びを得ることが出来ました。
- 手話を少し始めたところでしたので、とてもタイムリーな話題でした。
- サブタイトルの一手話の現在地とこれからの日本語教育—はとても珍しいテーマのシンポジウムだとおもいました。ただテーマが特異すぎて、パネリストの間でも共通認識がないように見受けられ、これからの日本語教育のあり方には不安が感じられました。
- 中島先生や福村先生のご発表の資料がいただきました。ありがとうございます。
- シンポジウムの際に司会者が一方的に質問をするだけで終わっていますが、パネリスト間の自由な質問も少しあった方が良かったなあと思いました。またできたら参加者からの質問も受けられる時間があるととてもよかったですね。
- ろう者の方に日本語教育の観点から、言語使用についての話を聞く機会は今までなかったので新鮮だった。「日本語が強い」と何度も出てきたように、日本にいと外国人以外の他言語の話者を意識することが

少ないと思う。現在の苦手などの状況は詳しく分からないが、手話で教育を受ける環境が整えば、母語が手話である人が学びやすくなり、その点で勉強に苦手意識を持つろう者が減るのでは、などと考えた。一方で、多言語国家では複数の言語が話せるのが当たり前であり、どの言語でも教育が受けられるわけではないと思う。この先「日本語が強い」状況が変化していくのかもしれないが、それも寂しいとも感じる。

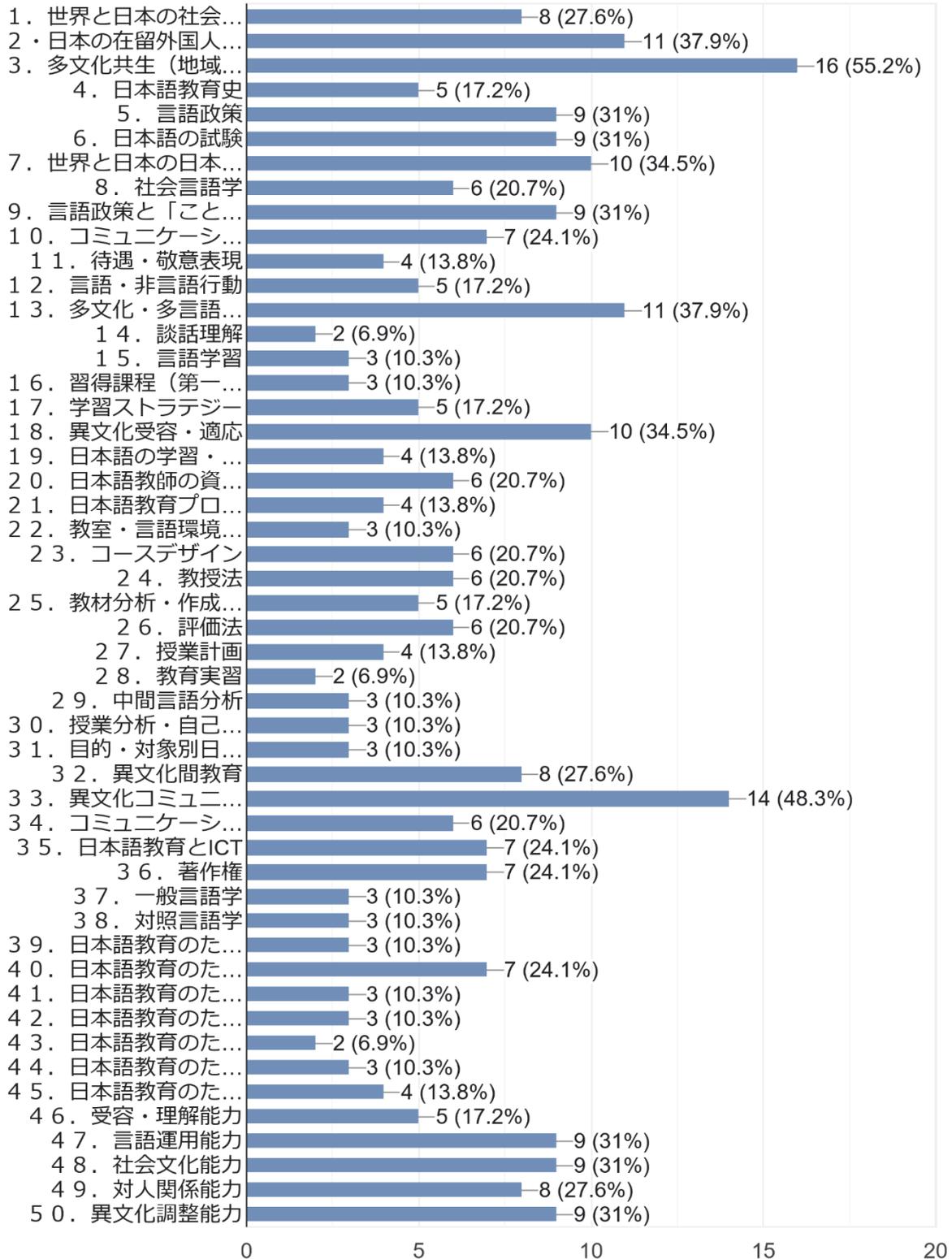
- 今まで理解できていなかったことが、すっと腑に落ちました。
- 研修に参加し、様々な視点からのご意見を伺うことができました。日本ではマジョリティ側であることを意識して日頃の業務を行おうと思いました。とても良い内容でしたので、遠方からでも参加しやすいよう、オンラインも対応していただけるとありがたいです。
- 手話はろうの方にとって第一言語ということ またあらためて認識しました。
- 当事者の経験、考えを直接聞けたことが貴重だった。自分にできることがないか、考えるようになった。
- 聾者の方のお話をお聞きできたことで、今まで日本語教師として意識していなかった点に気づかされ、非常に勉強になりました。基調講演では聾者の方への日本語教育、日本手話教育について、文科省の見解をお聞きしたかったです。
- ことばの多様性で初めてろうの方からの視点で考えるシンポジウムに参加することができました。その視点でもこれから日本語教育を考えてみるきっかけになりました。

次回の研修会・勉強会に向けて、必須の教育内容 50 項目において、どちらを更に学びたいですか。

(該当するものすべてお選びください。)

次回の研修会・講演会に向けて、必須の教育内容5...すか。(該当するものすべてお選びください。)

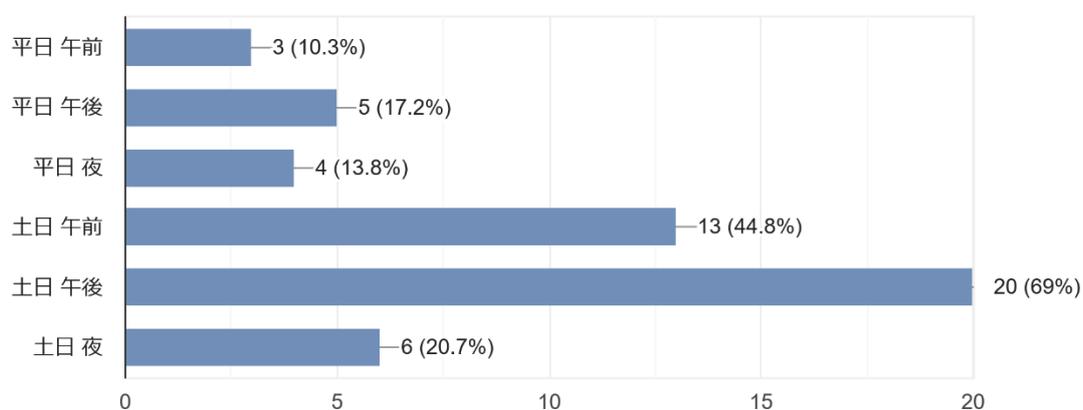
29 件の回答



来年度の企画の参考にさせていただくため、こういった曜日時間帯であればご参加しやすいか、ご希望を
聞かせください。

(時期により状況は異なるかもしれませんが、比較のご都合の良い時間帯を**できるだけ多く**お選
びください。)

来年度の企画の参考にさせていただくため、どうい...い時間帯をできるだけ多くお選びください。)
29件の回答



ご所属

ご所属
29件の回答

